

「光球の観察(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

遮光板を使った太陽の観察は、子どもたちの探究心を刺激するのに非常に適した活動と言える。私自身も、フィルター(太陽専用)や絞り、シャッタースピード等を工夫して、この日の太陽を何枚も撮影した。下の写真は、実際に遮光板で見たこの日の太陽に非常に近い写し方をしたものである。



この日は、観察に主眼を置いたので、その場で記録することにはあまり期待していなかった。しかし、子どもたちの多くは、屋上の床でノートを開いて一生懸命に記録をとっていた。



「黒点が見えたよね」「うん、3個見えた」・・・いや、黒点までは見えなかったと思うが・・・。

記録の内容はさまざまで、太陽(光球)の形状を描くもの、(雲に対する)動きを詳しく記録する者・・・私は、記録したノートをもとに、黒板に書かせることにした。「バーゲンセール型発表」と呼んでいる。

およそ半数の子どもが、「何かしら」書いて、このあと黒板の前で発表していた。



【子どものノート・発表から】

「太陽が丸いのは知っていたけど、本当に丸かったのだから、よかったです。丸くて何か安心しました」

「太陽がみどり色に見えた。しゃ光板のガラスは黒いのに、何でみどりに見えるのかふしぎです」

「しゃ光板が、どんどんあつくなくなっていった。きっと、太陽の温度をすいとして、あつくなったのだと思う。その分、目が守られる」

「しゃこうばんの前でうでをのぼして、小指を出したら、太陽がかくれしました。月と同じぐらいの大きさだとわかりました」

「雲とあとみのとう(跡見学園の塔)を比べて見たら、雲も動いていた。でも、太陽のそばには、雲しかないのだから、どっちが動いているのかわからない」

さまざまな気づきが見られる。遮光板を使った光球(太陽の実体)の観察、やらせてよかったと思う。